

広報

# 中部の森林

もりもり



写真：「中部森林管理局庁舎のナナカマド」

私の森語り「木を眺める時間」  
広葉樹コンシェルジュ 眺木展実行委員会代表 及川 幹

## 特集

- ・令和6年能登半島地震への対応
- ・中部森林技術交流発表会を開催

## 各地からの便り

- ・こどもたちと森林をつなぐ冬の森林教室を実施 ほか

## シリーズ

- ・森林官からの便り、私の森語り、中部の保護林、秘蔵写真・今は昔の林業

※令和6・7年度「国有林モニター」募集中！（今月16日まで）



林野庁中部森林管理局



2024/No.239

令和六年  
能登半島地震への対応

令和六年一月一日に石川県能登地方で発生した能登半島地震によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災されました方々にお見舞い申し上げます。

◇中部森林管理局

災害対策本部の設置

【企画調整課】

元日に発生した能登半島地震では、震源に近い富山県で震度五強を観測するなど、管内各地で強い揺れを観測したため、地震発生直後に中部森林管理局を本部長とする、「中部森林管理局災害対策本部」を設置し、情報の収集、職員の安否確認、富山県庁への連絡員派遣、管内における被災状況の確認、関係機関と連携しての被災地支援などを行ってきました。

引き続き、関係機関と連携し、状況の把握に努めるとともに必要な対策を実施していきます。

◇富山県と合同でのヘリコプター

による状況調査を実施

【治山課】

地震の発生を受け、震源に近い富山県の林地被害等を調査するため、一月五日に富山県森林政策課との合同で、ヘリコプターによる上空からの調査を実施しました。

県内のうち、特に震源地に近い西部の被害が心配されましたが、ヘリコプター調査の結果、今回の地震に伴う新たな林地被害は確認されませんでした。

しかしながら、未だ余震が続く状況の中、地震による地盤の緩みが起因となり、今後の雨や雪等により崩壊する恐れもある等、予断を許さない状況でもあるため、今後とも注視していく予定です。

当局では、引き続き、県・市町村と連携した迅速な緊急対応を実施すべく、山地災害発生時等に地上からの現地確認が不可能な場合において、上空から林地被害等の把握・情報収集等を行うなど、地域住民の方々の安全・安心に貢献してまいります。



2024.1.5 ヘリ調査写真（富山県氷見市・民有林）



2024.1.5 ヘリ調査写真（富山県富山市・国有林）



富山空港での飛行前の打合せ



ヘリコプターへの搭乗



フライト中の機内の様子



被災地支援

◆国宥林防災ボランティアとの連携による土木資材の提供

【企画調整課】

この度の地震で震度七を記録した石川県では、多くの山腹崩壊や土砂流出などの山地災害が発生したため、同県から林野庁を通じて近隣の森林管理局に対し、山地災害の拡大や土砂の流出を防止するための応急対策に必要なブルーシートや土のう袋等の土木資材の支援要請がありました。

当局では、速やかに管内の森林管理署等の資材を集約し、国宥林防災ボランティア制度に基づき協定を締結している(一社)長野林業土木協会及び(二社)名古屋林業土木協会の協力を得て、支援要請のあった二日後の一月六日に名古屋林業土木協会、その翌日には長野林業土木協会の会員のトラックに載せた資材を石川県庁へ届けました。今後も、被災地からの要請に迅速に対応し、中部森林管理局一丸となって可能な限りの支援に取り組んでまいります。

① 森林管理署等における資材の積み込み作業(一部紹介)



岐阜署 (岐阜県下呂市)



飛騨署 (岐阜県高山市)



富山署 (富山県富山市)



木曾署 (長野県木曾郡上松町)



中信署 (長野県松本市)



中部局 (長野県長野市)

② 資材の運搬状況



(長野林業土木協会)



(名古屋林業土木協会 2号車)



(名古屋林業土木協会 1号車)

活用された土木資材の事例



③ 石川県庁に搬入



令和6年1月7日



令和6年1月6日

【支援した資材】

ブルーシート 190枚、土のう袋 12,920枚、アンカーピン 263本、PPロープ 72巻、ビニールロープ 4巻、ナイロン結束バンド 6,000本、立入禁止テープ 30本、ガソリン携行缶 (20L) 1缶  
※ブルーシート、土のう袋等については、複数のサイズを含みます。



### 中部森林技術交流

### 発表会を開催

#### 【技術普及課】

一月二十六日、令和五年度中部森林技術交流発表会を開催しました。今年度は、運営の都合上、初めて全ての発表者及び審査委員がWEBで参加する方式としていたため、当日の一般公開はしませんでした。後日録画データをHPで閲覧できるようにしました。

発表は、民有林関係者によるものも合わせて「ふれあい・地域連携部門」に五課題、「森林保全部門」に五課題、「森林技術部門」に九課題の計十九課題となり、当日は二会場に分かれて進行しました。このうち、審査の対象となる国有林関係の発表は十四課題あり、厳正なる審査の結果、以下の二課題が優秀賞に選定されました。

発表会の録画データは、三月二十九日まで動画配信しています。



### 受け流す柵で減災

#### ～逆転の発想で早期に復旧～

(愛知森林管理事務所)

造林地に「獣害防護柵」を設置後、豪雨時に土砂や枝条などが集中して流出する箇所で損傷するケースが多発しており、修復しないとそこからシカが入り込むため、職員が応急的に修理を行います。それでもシカの侵入を許してしまうことがあります。

そこで、平成二十九年頃頃から当所独自の取組として、被災しやすい箇所では「壊れない柵」ではなく、「簡単に直せる柵」へと発想を切り替えることとしました。

具体的には、大きな沢をまたぐ箇所では、仮に倒れてもこれに連なる柵に影響しないよう、独立させて設置する方法を新たに導入したところ、損傷箇所は最小限となり、早期の復旧が可能となりました。従来の資材のままコスト増につながらない「受け流す柵」は、維持管理の省力化に大きくつながりました。



豪雨時、受け流す柵のみが損壊する様子

### 真砂土地域に適した

#### シカ被害防止対策の試み

(東濃森林管理署)

真砂土地域では、シカ防護柵を設置しても土壌流出等により柵が損傷しやすく、シカの侵入による被害が頻発してきました。このため、植栽地全周に設置する「周囲柵」、崩れやすい箇所を避け複数の区域に分けて柵を設置する「ブロック・ディフェンス」、苗木毎に資材を設置する「単木保護」、「忌

避剤」散布のコストシミュレーションと各防護方法を実施した苗木の経過を検証しました。

これにより、「単木保護」ではコストはかかるが成長量と防護力は高く、「周囲柵」ではコストは低いが防護力も低く、「ブロック・ディフェンス」では周囲柵より初期コストはかかるが、防護力が高いため長期的にみるとコストを抑えられる結果となりました。このことから、真砂土地域では現地の地形等を精査した上で、最適な防護方法を選択することが重要と考えます。



真砂土地域の防護柵の損傷状況

## この他の国有林の発表課題

「森林技術部門」では、育成複層林における間伐後の光環境、更新補助作業が及ぼす効果の検証をはじめ、ヒノキコンテナ苗への超緩効性肥料の生育促進効果の取組、早生樹であるコウヨウザンの初期成長にかかる経過報告、植栽木の定着が困難な大規模崩壊地での獣害及び乾燥対策の取組、広葉樹大径材のモデル林育成の経過報告、山地災害箇所での緑化を目指した植生マット伏工の結果報告、UAV写真測量で取得した3D点群データにより継続的工事が計画的に組めるようになった成果など、多岐にわたる報告がなされました。

「ふれあい・地域連携部門」では、

公園の利用と保全を両立させてきた森林環境整備推進協力の二十年の経緯と今後の課題をはじめとし、国有林が地域と密接に取り組んできた活動の報告、ブランド化から十年が経過した高木曾ひのきに対する認知度や評価の変化など、各署の取組の歴史と成果が感

じられる発表でした。

「森林保全部門」では、環境省と連携してシカ被害を抑える北アルプスの取組と、中央アルプスの山麓地域での継続的なシカ生息調査の報告がなされ、いずれも高山帯でのシカ被害を未然に防ぐ取組報告がなされました。

## 民有林・学生による発表課題

実証試験地の十一年間からみた

コンテナ苗の成績と課題

(岐阜県森林研究所)

確実性の高い再造林を目指して、ヒノキの実生コンテナ苗と裸苗を比較しながら、成長量等の検証を行い、得られた課題と対策について報告されました。

地域木材製品の海外需要開拓

(有限会社和建築設計事務所)

アメリカやベトナムでの二年前に及ぶ試験から得られた成果をもとに、付加価値の高い日本産木材製品の海外需要を増やすためには、その輸出先の国の法規制や規

則で定められている規格の性能試験を通して、これらを製品に表示していくことの必要性を発表されました。

民有林の管理委託事業における

入札・契約方法の手続きの検討

長野県佐久市春日財産区が

実施したプロポーザル方式の

入札と森林管理委託契約

(長野県佐久地域振興局)

佐久地域振興局では、地元の財産区の方々に森林経営委託の丁寧な勉強会や現地調査の支援を実施してきました。その結果、整備区域の範囲や委託事項を決めて林業事業者との委託契約を締結することができたため、公有林の管理を進める上での効果的な手法として紹介されました。

赤外線センサーカメラで撮影された

ニホンジカの行動分析

北八ヶ岳地域の国有林での成果

(長野県林業総合センター)

八ヶ岳の亜高山帯針葉樹林では、ニホンジカによる食害により

天然更新が困難となる可能性が高いと言われています。センサーカメラ調査の結果、林床の植生によりシカの出現率に差異があることが分かり、これを解析結果と併せて報告されました。

人里にツキノワグマを

滞在させないための

環境整備の効果検証

(信州大学大学院総合理工学研究科)

下層植生を除去する環境整備を行うことで、整備後にクマの利用頻度や滞在時間が著しく減少することを検証。整備によってクマの出没が夜間に偏ることから人間との遭遇リスクが減り、人身事故防止に有効な手段であることが報告されました。

関係者の皆様のご協力により、オンラインでの森林技術交流発表会を無事開催することができました。心より感謝申し上げます。





こどもたちと森林をつなぐ  
冬の森林教室を実施

【中信森林管理署】

十二月十二日、当署に松本市堀米保育園の園児十八名を迎えて森林教室を実施しました。同保育園との交流は十年以上続いており、職員にとっても待ち遠しい年中行事になっています。

最初に、署長からサンタクロースの由来や森林に誘う話をしたのち、職員がクマの足の実寸大パネルを使用し、クマの大きさを想像してもらいながら冬眠の説明をするなど、園児に興味を持ってもらえるよう工夫しました。

また、フジヤサンゴジュの冬芽を題材にした遊びでは、顔のようにも見える冬芽に、園児から「お猿さんみたい」とか「恐竜だ」などと歓声が上がリ、寒い時期にひっそりと姿を変えて春を待ちわびる冬芽を見て、樹木の生態や四季を感じてもらうことができました。

続いての輪投げゲームでは、目標として置いたシカの角に「蔓の輪」を何度も投げ入れ、苦戦しな



オリジナルのクリスマスツリー作り

がらも成功させて大はしゃぎで喜ぶ園児たちの姿が印象的でした。最後に、様々な色の松ぼっくりから好きなものを選び、丸太を輪切りしたコースターの上に接着し、煌びやかなビーズや雪に見立てた綿で飾りつける「世界にひとつだけのクリスマスツリー作り」に挑戦し、それぞれ完成した作品を眺め、クリスマスのイベントを楽しみにしている様子でした。

広葉樹採材検討会を開催

【南信森林管理署】

十二月十八日、伊那市手良沢山国有林において、生産請負事業者の監督員や関係職員などを対象とした広葉樹採材検討会を開催しました。採材とは、伐採した木を丸太に切り分けることです。

本検討会は、国内外において広葉樹資源の需要が高まっているなか、輸入材も高騰し、国産広葉樹は大変貴重な資源となっていることから、国有林で生産される広葉樹を適正に採材することで、住宅資材や家具などの一般用材としての活用が進むよう計画したもので、広葉樹の銘木市場である小林三之助商店各務原営業所長の三浦隆幸氏を講師に招き、供試木として用意したクリ・ホオノキ・コナラ・キハダ・アサダを前に、四グループに分かれて採材の検討を行いました。

各グループより検討結果を発表した後、三浦氏から「広葉樹の採材は必ずしも三辺や四辺などの長

尺材にする必要はなく、用途に応じた採材を行うことが重要であり、高く売るためには直材かつ大径で切ることが重要」との講評がありました。

参加者からは、「同業者でも採材に違いがあり、針葉樹と全く異なることも認識できた」「今まで採材に迷うことが多かったので参加して良かった」との感想が出されました。

当国有林では、伐造一貫作業システムにより人工林の皆伐を実施しており、その際に有用広葉樹も多く生産されることから、これまでも職員による採材の指導や木口割れの防止を施すことでの有利販売に努めてきました。本検討会の成果を各現場や事業者で活かし、広葉樹材の販売単価向上に繋がることを期待しています。



採材の検討結果を発表の様子



シリーズ

# 森林官からの便り

国有林の現場の最前線で、働く森林官の仕事や、管轄する地域の特色などを紹介します。

伊那谷総合治山事業所

飯田治山事業所

治山技術官 橋戸 俊

飯田治山事業所は、長野県飯田市に所在し、木曾山脈を源とする天竜川流域の松川上流域において、松川入地区民有林直轄治山事業を治山技術官、主事の二名体制で実行しています。



最上流域の荒廃状況（松川入地区民有林）

約五、三〇四ヘクタールの民有林を事業区域とする松川入地区の治山事業は、昭和二十八年から長野県により実施されてきましたが、昭和三十六年六月の梅雨前線豪雨災害、昭和後期の度重なる台風災害等により荒廃が進み、飯田市民の水源となる県営松川ダムに土砂が流入し、ダム機能の確保が危機的状況となったことから、地元や長野県の要請により、平成五年度から国による民有林直轄事業に着手し、継続的に治山工事を実施し、森林への回復を目指しています。現在は山腹工を主体とした復旧工事を行っています。事業区域の大半は花崗岩深層風化地帯であり、マサ化による侵食が著しい土質で、表層剥離型の崩壊地が散在しています。マサ化した土壌は栄養状態であるため、特に緑化の工種、工法の選択が林地復旧への良い悪しを左右することから、過去の施工実績や復旧状況を参考に

しつつ、現地に適した工種を選択することがポイントとなります。これからも伊那谷総合治山事業所勤務の技術専門官等との打ち合わせを定期的に行い、地域の方々にも治山事業の重要性や必要性をPRしながら、安全・安心を確保する治山事業に取り組みでいきます。



旧庁舎の古材を天井などに活用している伊那谷総合治山事業所の現庁舎



治山工事監督業務の様子（筆者）

■ 未来の担い手へのメッセージ  
私自身は、治山業務が三年目となり、工事監督業務等を経験したことで、森林の回復を目的とした治山事業に関わる様々な知識・技術を習得することができ、とてもやりがいを感じています。まだまだ経験が浅いため、今後、経験を積み、知識や技術を習得していきたいと思っています。  
工事監督業務を通じ、様々な経験ができるので、一緒に治山事業に取り組んでみませんか。





# シリーズ「私の森語り」

「木を眺める時間」



ジュエリ委員会代表  
及川 幹  
岐阜県飛騨市古川町本町二番二号  
広葉樹コンシェルジュ  
眺木展実行委員会  
おいかわ

## ■自己紹介

2020年、飛騨市地域おこし協力隊・広葉樹コンシェルジュに着任。飛騨市が進める広葉樹のまちづくり事業において、川中を起点とした販路開拓や流通構築に取り組む。現在は、広葉樹の短期乾燥プロジェクトと、製材所の再稼働事業を兼任。

## ■活動内容

眺めがいのある木のことを「眺木」と名付け、老若男女に楽しんでもらう企画展を開催しています。素材そのものの価値を目利きの評価する銘木とは異なり、眺木には価値の貴賤がありません。

森林・林業との関わりの中で、様々な課題に挑戦されている方の取組を紹介します。



プロアマも関係ありません。それぞれが日々の生活・仕事を営む中で、個人的にひっそりと出会い、見出した眼差しが眺木の源泉となっています。

地域を越えた継続性のある取組にしようと、2023年には眺木展実行委員会という市民有志による任意団体を立ち上げました。非



個性的な眺木たち



木を楽しむ人たち

## ■メッセージ

木を眺める時間を、この忙しい現代社会の中でも忘れないようにしたいものです。

大の大人が眺木展に何を出そうかと頭を悩ませている姿、子供たちが自由に木を触っている姿、地域のご老人たちが懐かしむように木を眺めている姿、一円も生まない時間ではありますが、この遊びのなかに大事なことが詰まっているように思います。

先の展開が全く予測できない眺木展、今年もたくさんの地域で木を楽しむ人が増えることを願っています。

## ○連絡先

〒509-4292

岐阜県飛騨市古川町本町二番二号

広葉樹コンシェルジュ

<https://www.instagram.com/hardwood.concierge/>

<https://www.instagram.com/chobokuten2023/>

眺木展実行委員会

<https://www.instagram.com/chobokuten2023/>

[chobokuten2023/](https://www.instagram.com/chobokuten2023/)





シリーズ

秘蔵写真

# 今は昔の林業

第34回

中部森林管理局総務課

井上 日呂登

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介いたします。

## 「豪雪」

中部森林管理局の管内は南北に広く、地理や高度も様々であり、積雪量も場所や年によって大きな違いがあります。



昭和30年頃、雪に覆われる建設中の飯山営林署庁舎（北信森林管理署の旧庁舎）

中部地方で戦後に記録に残っている大雪としては昭和三十八年の一月から二月にかけての「三八豪雪」、昭和五十五年の十二月から昭和五十六年一月にかけての「五六豪雪」が知られています。



昭和三十八年、雪の中の富山営林署庁舎（富山森林管理署の旧庁舎）

こうした豪雪の際、山間部では集落の長期にわたる孤立、建物の倒壊、物資不足などが



昭和56年、3m積もった屋根の雪おろし（現在の飛騨森林管理署管内）

発生し、営林署関係者も雪おろしや除雪作業、地元との協力などの対応に追われることとなりました。  
また豪雪の際には林木の折損・倒伏といった森林の被害、各種作業の中断・交通機関の混乱による木材出荷量の減少など、林業・木材産業にも雪が解けた後まで続く大きな影響が現れました。



昭和38年、岐阜県荘川村の救急患者を高山市内の病院に運ぶ（後方車両が村役場のもので患者が乗車。前方車両が荘川営林署のもので、営林署の職員もロープで牽引している。／現在の飛騨森林管理署管内）

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかししの写真を紹介するサイトです。  
当サイトへは、コードを読み込んでください。





シリーズ

# 豪雪地帯のオオシラビソの天然林

## 立山オオシラビソ 希少個体群保護林

### 設定目的

日本有数の豪雪地である立山<sup>たてやま</sup>弥陀ヶ原<sup>みだらがはら</sup>には、針葉樹の中でも積雪の多い山になるほど優勢となるオオシラビソ（アオモリトドマツ）がまとまって生育しています。豪雪地における特徴的な天然林として、当該個体群の保護・管理をしています。

### 地況・林況

当保護林は、富山県の常願寺川<sup>じょうがんじがわ</sup>源流域にある弥陀ヶ原周辺の北々西向き斜面に位置しています。日本海側気候の影響を強く受け、冬季には四日以上以上の積雪がみられます。

植生については、オオシラビソが高木層の優占種となっていますが、風衝面や雪の影響を大きく受ける箇所では矮小化し疎林状となり、ダケカンバやコマツガ等が生育しています。

所在地  
富山県 中新川郡 立山町



国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年（大正4年）以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。



※詳細は、コードを読み込んでください。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイヤルイン：026-236-2612





活躍を祈念して、山形へ向けてみんなで応援のメールを送りました!



一月二十日から二日間にわたり開催された同競技会の岐阜県予選会において、大学生等の強豪を相手に激走した青木さんは、男子成年A組十キロレクリカルで二位となり、全国大会の切符を手に入れました。

今月二十一日から山形県で開催される「第七十八回国民スポーツ大会冬季大会スキー競技会」のクロスカントリー競技大会に岐阜森林管理署濁河森林事務所の青木さんが岐阜県代表として出場することとなりました!

岐阜署の青木徹郎さん  
国スポ出場おめでとう!

### 令和5年度 GSS撮影 フォト特集

各地のGSS（グリーンサポートスタッフ）が今年度撮影した活動写真の中から、デジタル森林紀行に追加予定の写真を紹介します!



金華山GSS（岐阜署）  
ツブラジイ 5/10



天生GSS（飛騨署）  
咲き始めたアカモノ 6/19



カヤの平GSS（北信署）  
高標山山頂からの眺め 8/10



上高地GSS（中信署）  
ウスノキの実 8/16



北アルプスGSS（富山署）  
仙人池と裏剣 8/29



美ヶ原GSS（中信署）  
ツタウルシの紅葉 10/1



中央アルプスGSS（南信署）  
薄化粧の天狗岩 10/6



万波GSS（飛騨署）  
白木峰のブナ黄葉 10/17

### 編集長だより

（中部の森林へのご意見・ご要望等の投稿は、[migoro@maff.go.jp](mailto:migoro@maff.go.jp)まで電子メールでお送りください。）

日本の山に自生し、紅葉が美しいことで有名な落葉広葉樹である「ナナカマド」の名前の由来は、材がかたくて7回カマドに入れても燃え尽きない木だからとか、7日間炭窯で蒸し焼きにしても燃え尽きずに良質な木炭になるからなどという話を聞いたことがある方もいると思います。昔から人々の生活に寄り添い、春の芽吹き、新緑、秋の紅葉など四季折々の山の風景を彩るナナカマドは、見る人を笑顔にしてくれる存在でもあります。

先日、局庁舎の庭が真っ白な雪に覆われる中、鳥たちが集まるナナカマドの木に色づく真っ赤な実が心がかゆい、眺めているうちに優しい温もりのようなパワーを感じたので、広報室からカメラを持ち出して本誌表紙の写真を撮影しました。

ナナカマドの名前の由来などを知っていたからパワーを感じたのかも知れませんが、能登半島地震の被災地の方々や寒い冬にがんばっているすべての皆様に、表紙の写真とともに中部森林管理局からパワーを送ります!



17. 穂高 蒲田左俣林道（飛騨署管内）



中部森林管理局のホームページ等へのアクセスは、以下を読み込んでください。



中部森林管理局  
ホームページ

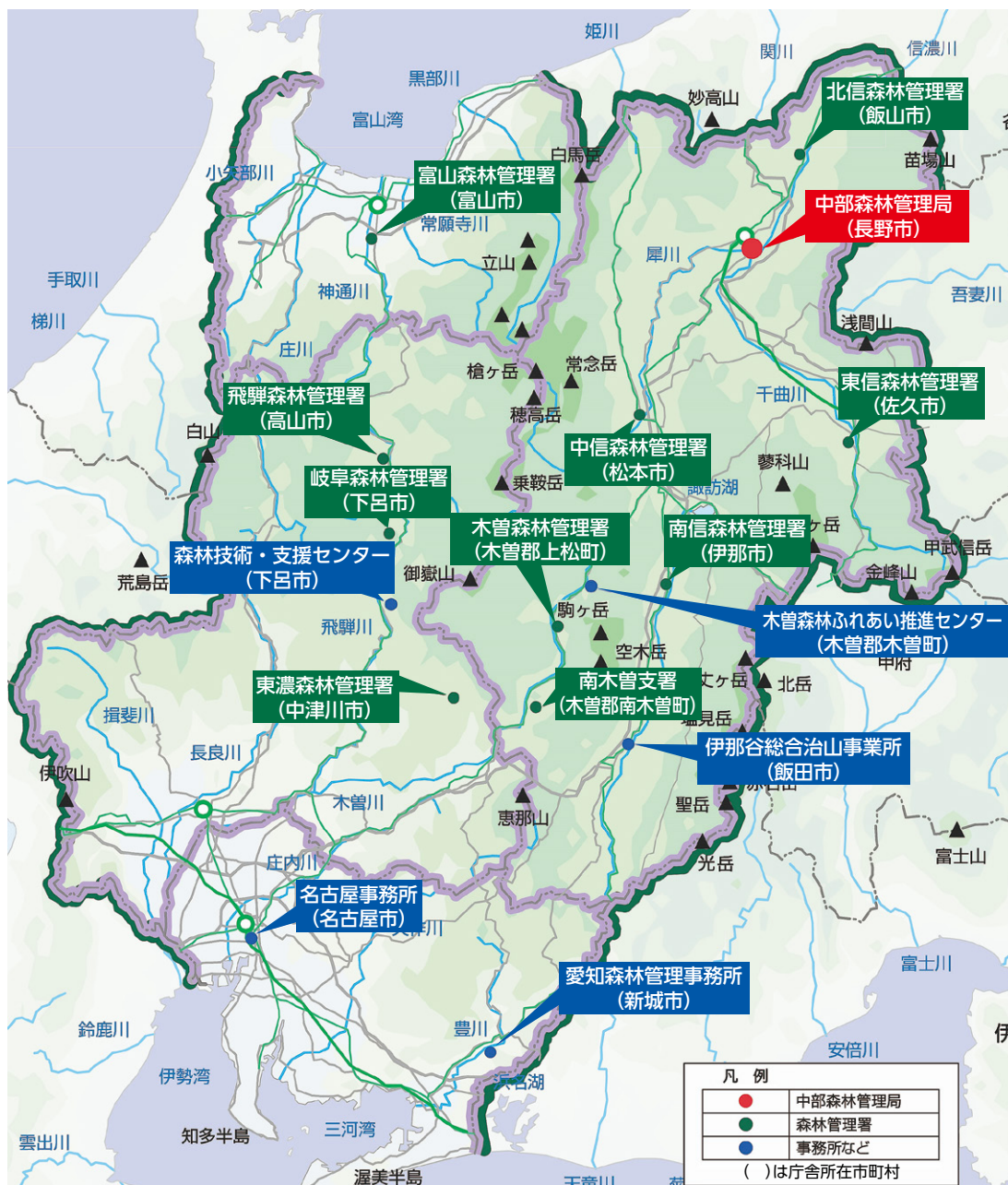


広報  
「中部の森林」



用語の解説

本誌文中に掲載している主な専門用語・業界用語を解説。



名古屋事務所	〒456-8620	愛知県名古屋市中熱田区熱田西町1-20	TEL 050-3160-6660	c_nagoya@maff.go.jp
富山森林管理署	〒939-8214	富山県富山市黒崎字塚田割591-2	TEL 050-3160-6080	c_toyama@maff.go.jp
北信森林管理署	〒389-2253	長野県飯山市大字飯山1090-1	TEL 050-3160-6045	c_hokushin@maff.go.jp
中信森林管理署	〒390-0852	長野県松本市島立1256-1	TEL 050-3160-6050	c_chushin@maff.go.jp
東信森林管理署	〒384-0301	長野県佐久市白田1822	TEL 050-3160-6055	c_tohshin@maff.go.jp
南信森林管理署	〒396-0023	長野県伊那市山寺1499-1	TEL 050-3160-6060	c_nanshin@maff.go.jp
木曽森林管理署	〒399-5604	長野県木曽郡上松町正島町1-4-1	TEL 050-3160-6065	c_kiso@maff.go.jp
南木曽支署	〒399-5301	長野県木曽郡南木曽町読書3650-2	TEL 050-3160-6070	c_nagiso@maff.go.jp
飛騨森林管理署	〒506-0031	岐阜県高山市西之一色町3丁目747-3	TEL 050-3160-6085	c_hida@maff.go.jp
岐阜森林管理署	〒509-3106	岐阜県下呂市小坂町大島1643-2	TEL 050-3160-6090	c_gifu@maff.go.jp
東濃森林管理署	〒508-0351	岐阜県中津川市付知町8577-4	TEL 050-3160-5675	c_tohno@maff.go.jp
愛知森林管理事務所	〒441-1331	愛知県新城市庭野字東萩野49-2	TEL 0536-22-1101	c_aichi@maff.go.jp
森林技術・支援センター	〒509-2202	岐阜県下呂市森876-1	TEL 050-3160-6095	c_gijutsus@maff.go.jp
木曽森林ふれあい推進センター	〒397-0001	長野県木曽郡木曽町福島5473-8	TEL 0264-22-2122	kiso-fureai@maff.go.jp
伊那谷総合治山事業所	〒395-0001	長野県飯田市座光寺5152-1	TEL 050-3160-6075	

発行：林野庁 中部森林管理局  
編集：総務課 広報  
〒380-8575 長野県長野市栗田 715-5  
電話：026-236-2531  
Mail：migoro@maff.go.jp  
http://rinya.maff.go.jp/chubu/

メールマガジンに登録いただくと、広報「中部の森林」を発行日と同時にデジタル版を毎月配信します。  
(毎月10日発行※編集の都合で、発行日が遅れることもあります)  
登録サイト <https://mailmag.maff.go.jp/m/entry>



本誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。